

日本の里地里山

- 自然を活用した解決策として -



2022

令和4年7月
環境省 自然環境局 自然環境計画課

局長より一言

里地里山は、国土のおよそ4割を占めると言われています。この恵みを未来に引き継いでいくためには、農村の担い手のみならず、都市に住む人々、民間団体、企業などあらゆる主体が参加した里地里山の保全活動が展開されなければなりません。このため、環境省は生物多様性の保全をはじめ多様な観点から里地里山の保全活用取組の現状を把握し、優れた手法や仕組みの事例を紹介することにより、各地の取組の推進を図っています。

多くの取組は、そこに生息生育する動植物の保全だけでなく、人々の暮らしの改善、地域経済の活性化、都市と農村の交流の促進など、より広い社会課題の解決を目指して行われています。まさに、今、国際的にも気候変動対策としての文脈で着目される『自然を活用した解決策』の具体的な事例を私たちに提供してくれています。

今、私たちの暮らしを守るため、2030年までに地球の陸と海の三割を健全な自然の生態系が保たれた場として保全していく（略して 30by30）ことが提案されています。私は、OECM（Other Effective area-based Conservation Measures）の認定の対象となり得る里地里山が、この目標の達成に大きく貢献する可能性を持つと信じています。

この資料は、広く皆さんに里地里山で展開される先進的な取組について知っていただき、多様な主体による保全活用取組が全国各地で国民的運動として展開されることを願いつつ、これから保全活用に取り組もうと思っている方にヒントを見つけていただけるように作成したものです。



目次

国内の里地里山の事例

里地里山とは	・・・ 2
自然・生物に着目した取組	・・・ 3
地域資源の経済的な活用に着目した取組	・・・ 5
都市と地域間の交流に着目した取組	・・・ 7

里地里山とは

里地里山とは、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域です。そのような人の営みがつくり出した里地里山は、食料や燃料生産の場となるだけでなく、様々な動植物の生息・生育の場となり豊かな生物多様性を育んできました。また、国土保全や水源涵養、環境保全の機能など、多面的な機能を発揮し、さらに癒しや楽しみ場の場、絵図や文学を創出する役割なども果たしています。

里地里山の多様な生物の営みによって、人が自然から得ているこれらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、私たちの暮らしに必要な資源を提供し、安全や快適性をもたらしています。これらの恵みの多くは、里地里山と人が関わり続けることで、生み出されるものであることから、里地里山を「国民共有の財産」と位置づけ、将来にわたって守り継ぐことが大切です。



事例の分野・種類について

	分 野	種 類		内 容
1	自然・生物に着目した取組		野生動植物の保護・調査	生息地の整備、モニタリング調査等
			外来種・鳥獣害対策	外来種駆除、イノシシ対策等
			景観の維持・自然資源の持続的な管理	耕作放棄地解消、森林整備、保全体制等
2	地域資源の経済的な活動に着目した取組		新たな資源としての価値	食料、エネルギー、肥料、観光資源等
			経済活動への多様な主体の参加促進	後継者育成、企業等参画、持続的な仕組み作り等
3	地域資源の経済的な活動に着目した取組		環境教育・自然体験の場	環境学習、自然観察会等
			伝統的生活文化の維持・継承	伝統行事・祭事等
			都市・農村交流の促進	農作業体験、エコツアー等



地域の田園風景



蘇ったニコウキスゲ



企業参加のビオトープ造成作業

目的

本地域は、戦後の拡大造林や土地改良事業による水田整備などを免れてきた中山間地です。しかし近年、水田の乾田化や化学肥料・農薬の使用、侵略的外来種などの影響により、ため池を中心に在来水生生物が減少。管理放棄された樹林では間伐や下草刈りが行われず、林床の植生が貧弱化しています。

そこで本協議会では、当該地域に残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価し、保全するために活動を始めました。生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的なモニタリングと検討によって丁寧に取り除いています。積極的に生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを目指して自然再生に取り組んでいます。

取組状況

- ① 生物相のモニタリング調査
- ② 侵略的外来種の防除、耕作放棄地の手入れ・ビオトープ造成など調査や防除の結果より手法を模索
- ③ 環境教育を通じた地域内外の交流

富士山北部生物多様性保全推進事業

(山梨県鳴沢村・富士河口湖町 富士山北部生物多様性保全協議会)

生物多様性保全推進支援事業



目的

全国的に草原環境が国土の5%にまで激減し、多くの草原性動植物が絶滅の危機に瀕しています。

生物多様性ホット・スポット日本を代表する富士山も例外ではなく、“生物多様性保全上重要な里地・里山”に選ばれた半自然草原に、多くの絶滅危惧動植物が辛うじて生き残っている状況です。そこで、富士山北部の人工林伐採跡植林地と残された半自然草原で、草原性絶滅危惧動植物種をはじめとした生物相とその環境変化を調査することで、人工林の伐採跡植林地が絶滅危惧動植物の新たな生息地になり、その後の林業作業が富士山の生物多様性保全の役割を果たしているのかを検証しました。

取組状況(平成29年～30年)

- ① 絶滅危惧動植物種の現状把握と課題抽出
絶滅危惧13種の植物・チョウ類をはじめとした植生・チョウ類相・鳥類相・ほ乳類相の調査及び気象・土壌水分調査を行い、現状把握と課題抽出
- ② 林業作業との協働による絶滅危惧動植物種保全
定点調査地の伐採跡植林地での林業従事者やボランティアによる下草刈り作業・防鹿柵設置の効果を検証



ベニバナヤマジャクヤク



クロシジミ



植林地での下草刈り作業

珠洲市の里山における生物多様性の持続的保全に向けた 現状調査と体制構築 (石川県珠洲市)



生物多様性保全推進支援事業

目 的

珠洲市は豊かな里山里海と多様な生物を有しており、国と石川県の希少野生動植物種に指定されている希少ゲンゴロウ2種にとって全国有数の生息地となっています。これまで、希少ゲンゴロウ2種は珠洲市が策定した計画や、石川県の条例と保全対策などにより、ため池の維持や環境配慮型農業の促進活動、小学生向けの教育活動、保全推進員によるモニタリング調査が行われています。

一方で、ため池や水田の環境悪化が進んでいます。今後の長期的な保全を目指し、現状把握の調査を行い、地域住民にその結果を説明し、理解や協力を得ながら、取り組み方法を検討しています。

取組状況(令和元年～3年)

- 市内にある218箇所のため池の約3割は、道の管理不足で池まで到達不可もしくは消滅している状態であることがわかった。
- 過去2年間の調査で、163カ所のため池から167種の水生動物を確認した。希少ゲンゴロウは2箇所で確認された。
- 専門家を招いて、勉強会や調査方法の研修を開催し、ため池を必要とする生物への理解を深めた。
- 調査への協力を呼びかけながら調査を進めることで、調査員が、年々増加し、現在は18名の市民が調査に参加。



市民による調査の様子



採集されたゲンゴロウ類



専門家による勉強会

阿蘇地域におけるハナシノブ生育地再生による 生物多様性保全推進事業

(熊本県高森町 認定NPO法人阿蘇花野協会)



生物多様性保全推進支援事業

目 的

ハナシノブは草刈りや野焼きなどによって管理されている阿蘇の草原に自生しています。高森町では平成8年に2ヶ所の保護区が設けられています。しかし管理されなくなり藪となった場所では生育出来ず、保護区以外の自生地は年々減少しています。そのため、阿蘇花野協会では、保護区以外で現在ハナシノブが自生している草原の保全や、これまで自生が確認されながらその後消失した地点の現状を把握し、所有者や植林地の林齢などを調査しました。その結果をもとに、再生・保全が可能な地点を3ヶ所選定して伐採や草刈り・野焼きなどの保全活動を行いハナシノブを再生するとともに、ツクシマツモトやアソタカラコウなど阿蘇に特有な植物を含む草原の生物多様性の再生・保全を図っています。

取組状況(平成30年～令和2年)

- ① ハナシノブ再生候補地調査事業
ハナシノブ生育確認56地点のうち、再生可能な場所の選定を行うための調査
- ② ハナシノブ生育地および伐採跡地再生保全
現在ハナシノブが生育している地点の草刈り・野焼き等を行い、ハナシノブの生育環境を保全・再生



ハナシノブが咲く草原



草刈り前



草刈り・野焼き後

京都市北部山間地域チマキザサ再生事業

(京都府京都市 チマキザサ再生委員会)



里山未来拠点形成支援事業

目的

チマキザサは、京都市左京区北部山間地域に自生し、祇園祭に欠かせない厄除粽などの材料として京都文化を支えていましたが、ニホンジカによる食害、過疎高齢化による里山林管理の担い手不足等により減少し、供給する側・される側双方の地域の文化・産業が危機的な状況に陥っています。本事業で、チマキザサの再生、担い手確保・伝統技術継承、流通促進等を行い、生態系の回復、文化・産業の継承を目指します。

取組状況(令和3年～4年)

- ① チマキザサ再生のための環境整備
チマキザサ再生面積の拡大(防鹿柵の設置)
- ② 担い手確保及び技術の継承支援
次世代の担い手確保及び技術継承
(チマキザサ商品化のためのワークショップ開催等)
- ③ チマキザサ流通の促進
チマキザサの新規需要創出、高付加価値化等
- ④ 普及啓発事業
京都市街地の都市部の個人や企業等を巻き込み、活動継続を支える持続的な仕組み(経済的、人的支援)の構築



防鹿柵の設置によって復活したチマキザサ



食害にあったチマキザサ



チマキザサの流通イメージ

魚のゆりかご水田プロジェクト

(滋賀県野洲市 せせらぎの郷)

第4回グッドライフアワード環境大臣賞(優秀賞)

目的

滋賀県野洲市須原地区の水田は、豊かな水をたえた水路を通じて琵琶湖と繋がり、固有種の産卵の場となっていました。しかし、水田の区画整理で水路と田んぼに段差ができて琵琶湖から魚が遡上できなくなっていました。せせらぎの郷は「魚のゆりかご水田プロジェクト」により、生き物が激減した田んぼに階段状に工夫した魚道を整備し、かつてのびわ湖周辺でごく当たり前に見られた景観を復活させ、生態系の保全と環境に優しい方法による米づくりを両立することを目指している取組です。



魚が遡上できる魚道



取組を紹介する看板

取組状況

- ① 「排水路堰上げ式水田魚道」を整備
(滋賀県内の23地域、約182.1ha(令和3年度)で実施)
- ② 環境に配慮した方法での米づくり
(無農薬・無化学肥料栽培)
- ③ 「田んぼオーナー」制度を導入
- ④ 『魚のゆりかご水田米』『月夜のゆりかご(純米吟醸酒)』のブランド化
- ⑤ 体験チケット(田植え・稲刈り・生き物観察会)



農作業を体験できるチケット



『魚のゆりかご水田米』と日本酒『月夜のゆりかご』



目 的

真庭市は、森に放置された間伐材や林地残材、製材所などで発生する端材を活用したバイオマス発電所を行っています。また、里海である瀬戸内海で処理に困っている牡蠣の殻を、その源流である真庭市内の水田の肥料として活用した「真庭里海米」の発信を行っています。これらの様々な取組を通じて、里山をはじめとする地域の自然資源を活用した「地域で回る経済システムの確立」「自力で生き残れる地域」「中山間地域の日本のモデル」づくりに取り組んでいます。

その一環として、国立公園である蒜山高原に、真庭市が取組むサステナブルを体感でき、蒜山の観光・文化を発信する拠点として、2021年7月にGREENable HIRUZENをオープンしました。ここでは、真庭市と(株)阪急阪神百貨店が共同でGREENableブランドの商品やサービスを販売しており、CLTパビリオン「風の葉」をはじめ、ミュージアム、ショップ、アクティビティを通じて、楽しみながら持続可能な暮らしを体感できます。



CLTパビリオン「風の葉」



蒜山ミュージアム



蒜山高原の草原

取組状況(令和元年～2年)

- ① 国立公園蒜山の観光情報を提供する施設の建設
- ② サステナブルを意識したオリジナルブランドGREENableの商品の開発
- ③ サイクリングやピクニックなど、自然のなかでのアクティビティやミュージアムでのアートの提供
- ④ 蒜山の自然を活かし守る仕組みづくりのための「自然再生協議会」の設立

アマミノクロウサギと共生するタンカン

(鹿児島県徳之島町)

環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業



目 的

世界自然遺産に登録されている徳之島と奄美大島には、この島固有のアマミノクロウサギが生息しています。徳之島のアマミノクロウサギの生息数は200頭前後で、国の特別天然記念物に指定され、環境省レッドリスト絶滅危惧種IB類にも指定されていることから、徳之島のシンボルとなっています。

しかし、アマミノクロウサギによるタンカンの食害が問題となっています。そこで本事業では、食害対策だけでなく、地元農家とアマミノクロウサギとの共生を目指した地域循環共生圏づくりを行っています。

取組状況(令和元年～3年)

- ① 島内の住民を対象にナイトツアー・エコツアー
(クロウサギ生態観察、農園での食害被害低減防止柵の設置)
- ② アマミノクロウサギと共生する農園で採れるタンカンの高付加価値化
(ストーリーブック・新パッケージ)



アマミノクロウサギの巣穴



アマミノクロウサギからの食害対策



タンカン



目 的

相模湖近くの里山では、林業の担い手が減少し、森林管理ができなくなっていることがきっかけで森林保全のボランティア活動が始まりました。2002年にはNPO法人『緑のダム北相模』を設立。2005年から10年間はFSCのFM認証を取得。同じ頃から『若者の森づくり』がスタートし、間伐・枝打ち・下刈り、崩落地への植樹、伐採跡地の管理などを行なっています。現在は、東京学芸大学との協働プロジェクトに参加し、3Dプリンタなどのデジタルファブ리케이션を使いながら間伐材の活用に取り組んでいます。『若者の森づくり』は、環境にとって本当に大切なことを知る、実践的・体験的な「学び」の場となっています。

取 組 状 況

① 若者の森づくり

(間伐、枝打ち、ドローン・GISを使用した生態系調査、STEAM教育の視点による間伐材活用)

② 森林体験教室

(中高生の企画・運営にて地元小学生を対象)



定例活動に集まったメンバー



ロープを掛けて切り倒す方向を制御!



太い幹にもノコギリで挑みます

2世代教育(100年)による農業や林業の6次産業化を目指した次世代里山利用デザイン・プロジェクト

(東京都檜原村 新渡戸文化学園)

第7回グッドライフアワード 環境大臣賞 学校部門



目 的

新渡戸文化学園は、東京都檜原村のフィールドワークを通じて、里山に関する歴史や文化、生態系に関する知識の理解と、気候変動や、持続可能な社会を担う当事者意識の醸成や行動者育成を目指しています。生徒たちのアイデアから始まった耕作放棄地のリノベーション活動(特産品のジャガイモの生産と商品化、オーガニックコットンの栽培と商品化)、高校生から小学生や保護者にFSC認証林の価値を伝えるワークショップの実施、さらには、農業や林業における枝打ちや間伐作業などを体験する機会を作り出しています。

このプロジェクトは、対象を、持続可能な社会を担う次世代の学生およびその保護者の2世代とすることで、次世代型の里山利用について、6次産業化を視野に入れた、未来の里山のあり方を100年の時間軸で考えています。

取 組 状 況

- ① 村内の耕作放棄地を開墾してオーガニックコットンを栽培。収穫、糸紡ぎから加工、染色までを手がけてTシャツなどの製品に仕上げるプロジェクト。
- ② 檜原村の名物であるジャガイモ(ブランド名は「ヒノジャガ」)ジャガイモあんのおやきを作って販売するプロジェクト。
- ③ 薪や炭、堆肥利用が中心だった里山に、実や枝葉をおいしく楽しむことができる樹種の植樹を進め、それらを食品加工することによる6次産業化を進めるプロジェクト。
- ④ 里山や林業等の価値を学んだ高校生が、小学生や保護者に向けてのワークショップを実施するプロジェクト。



ジャガイモの収穫体験



枝打ち作業の現場を見学



ワークショップの様子



かみかつ茅葺き学校

(徳島県上勝町八重地集落 かみかつ茅葺き学校) 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

目 的

徳島県上勝町は人口が1,500人以下の過疎高齢化の進む町です。特に八重地集落では、高齢化率が約80%まで進んでいます。そこに住むお年寄りの方たちで葺いた茅葺き屋根の民家（旧花野邸）を拠点にして、かみかつ茅葺き学校を2019年から運営しています。かみかつ茅葺き学校は、茅葺き屋根の伝統と美しい景観を次の世代に残したいという想いの元、集落を維持するための関係人口の創出による持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



茅葺き民家「旧花野邸」

取組状況（令和2年～3年）

- ①ゼロ・ウェイスト宣言のまち上勝ならではの、昔の暮らし体験により、伝統とゼロウェイストの価値を感じてもらう「ゼロ・ウェイストプログラム」の実施による、町内拠点連携
- ②集落でいま行われている農作業に見える化し、集落外の支援者が手伝える仕組み「八重地応援隊」の実施による、棚田風景の維持



ゼロ・ウェイストプログラムの様子



石臼コーヒー体験の様子
(サステナブルツアー)



企業による棚田耕作(草取り)



八重地応援隊

廃校SATODUKURI BASE

(大阪府八尾市 環境アニメイティッドやお) 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業



目 的

八尾市高安地域は、大阪中心部にありながら高安山の麓に位置し、絶滅危惧種である淡水魚「ニッポンバラタナゴ（通称：きんたい）」も生息する自然豊かな里山です。環境アニメイティッドやおでは、こうした自然豊かな里山暮らしに魅力を感じる移住者を増やす取組を行っています。

2020年「八尾廃校SATODUKURI BASE」と名付け、里山の自然が残る大阪府八尾市高安地域の使われなくなった校舎を活用し、高安地域に残る豊かな里山の自然を体感できる場所として、このプロジェクトがスタートしました。

取組状況（令和元年～3年）

- ①身近な生き物を観察できる廃校を活用した博物館
- ②高安山の間伐材を使った加工体験教室
- ③八尾市の地場産業であった河内木綿を加工体験できるカフェ
- ④地元の野菜やグルメ、手作り雑貨などが集まったマルシェ



ニッポンバラタナゴ（通称：きんたい）



森林整備の様子



きんたい廃校博物館での生態系学習

●生物多様性保全推進支援事業

各地域で実施される生物多様性保全のための活動を推進するため、財政支援を行う事業です。特定外来生物の防除、国内希少野生動植物種の保全、自然再生推進法または生物多様性地域連携促進法に基づく計画作成等、様々な対象メニューを設けており、里地里山を対象とした取組でも活用されています。

（対象メニュー）

- ①特定外来生物防除対策
- ②重要生物多様性保護地域保全再生
- ③広域連携生態系ネットワーク構築
- ④地域民間連携促進活動
- ⑤国内希少野生動植物種生息域外保全
- ⑥国内希少野生動植物種保全
- ⑦特定外来生物早期防除計画策定
- ⑧里山未来拠点形成支援事業

●里山未来拠点形成支援事業（生物多様性保全推進支援事業の対象メニュー）

人々の暮らし方の変化も踏まえた、里地里山における生物多様性に配慮した持続可能な活動を支援・普及を行うものです。

具体的には、「重要里地里山、都道府県立自然公園、重要湿地、都道府県指定鳥獣保護区、国立・国定公園普通地域、特定植物群落、モニタリングサイト1000里地調査対象地」を対象エリアとして、里地里山の資源を活用したスモールビジネスを創出など、里地里山の保全・活用に関する先進的・効果的な活動の支援等を行います。

●環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

本事業は「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備に取り組む団体を支援します。また、取り組み内容、支援のあり方や効果を測る指標等の検討を実践的に行い、その結果を基に全国における地域循環共生圏の創造を強力に推進する「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」を構築することを目的としています。

●自然再生事業

自然再生推進法（平成14法律第148号）に基づき、過去に損なわれた生態系や自然環境を取り戻すことを目的として、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して自然再生協議会を設立し、自然環境を保全、再生、創出、またはその状態を維持管理するために自然再生事業実施計画を策定し・実施を行うものです。

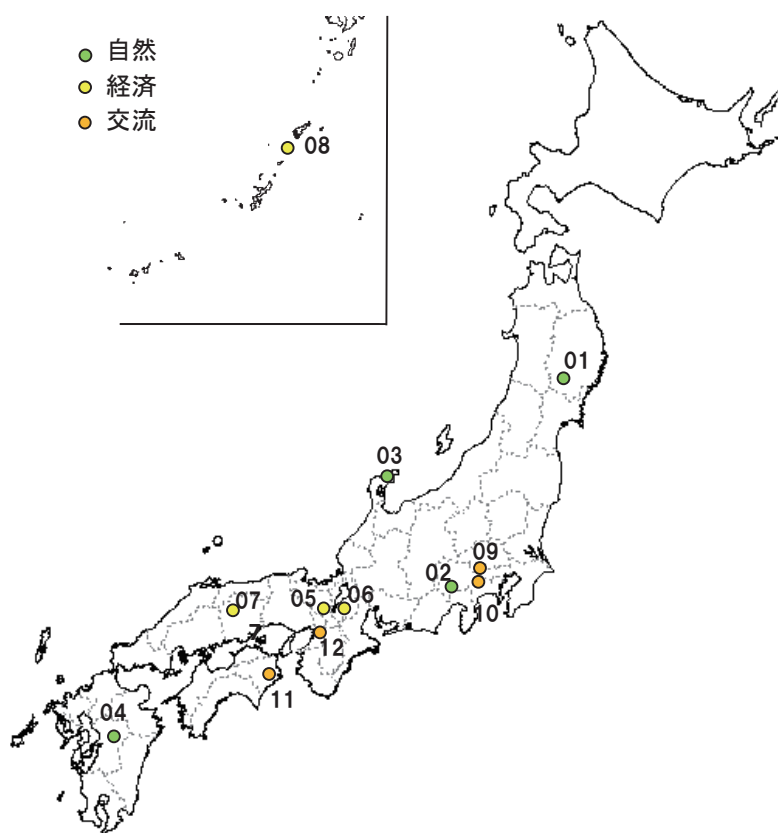
●グッドライフアワード

環境に優しい社会の実現を目指し、日本各地で実践されている活動や取り組みを環境省が募集して紹介、表彰し、活動や社会を活性化するための情報交換などを支援していくプロジェクトです。

●重要里地里山

環境省では、様々な命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、「生物多様性保全上重要な里地里山（略称「重要里地里山」）」（500箇所）を選定しました。選定された「重要里地里山」は、地域における暮らしや営み、保全活動等の取組を通じて守られてきた豊かな里地里山を広く国民のみなさまに知ってもらうためのものです。また、地域における農産物等のブランド化や観光資源などにも、広く活用できるものと考えています。

事例位置図



地区一覧

	地区名	市町村
01	久保川イーハトーブ 自然再生協議会	岩手県一関市
02	富士山北部生物多様性 保全推進事業	山梨県鳴沢村 富士河口湖町
03	珠洲市の里山における 生物多様性の持続的保 全に向けた現状調査と 体制構築	石川県珠洲市
04	阿蘇地域におけるハナ シノブ生育地再生によ る生物多様性保全推 進事業	熊本県高森町
05	京都市北部山間地域 チマキザサ再生事業	京都府京都市
06	魚のゆりかご水田 プロジェクト	滋賀県野洲市
07	GREENable HIRUZEN	岡山県真庭市
08	アミノクロウサギと 共生するタンカン	鹿児島県徳之島町
09	2世代教育(100年)によ る6次産業化を目指し た次世代里山利用デ ザイン・プロジェクト	東京都檜原村
10	相模湖・若者の森づくり	神奈川県相模原市
11	かみかつ茅葺き学校	徳島県上勝町
12	廃校SATODUKURI BASE	大阪府八尾市



環境省
Ministry of the Environment
Japan